

ミルクアレルギーがあり、ミルク除去をしていましたが、それまでかかっていた主治医が「2歳半頃になると食べられるようになることが多い。」と言われていたため、自宅で脱脂粉乳入りのマーガリンを使ったスコーンを食べさせてみました。1口食べさせて、20分後に喘鳴、顔のむくみがみられたため、直ぐ病院を受診しました。

解 説：

食物アレルギーの寛解には、個人差があります。にもかかわらず、以前に言われたことを覚えていて自己判断から自宅で食べさせてしまったため症状が出てしまいました。

対 策：

必ずアレルギー専門医と相談して解除の時期と食べられる食品内容を確認してください。経口負荷試験は医療機関で行ってください。

2. 震災をつなぐ… 『震つなのML』NO.1

『「アレルギーっ子の防災救援ネットワークシステム」（トヨタ財団助成事業）が構築され、「震災がつなぐ全国ネットワーク」（略「震つな」）に会員登録を行いました。

これにより、アレルギー支援ネットワークと災害ボランティア（団体）の皆さんとの新たな連携ができました。これまで、静岡の災害ボランティアの皆さんやレスキューストックヤードの方など個別の連携をすすめてきましたが、更にその輪を広げたいと思います。

そこで、その第一弾として「震つなのML」をメルマガに転載させていただけることになりました。

今回記事を書かれた村井さんは偶然にも、阪神淡路大震災でアレルギーの支援物資を現地・神戸で受け入れていただいたグループのメンバーの方です。現在は能登半島地震後の被災地で奮闘しておられますので、現地からの報告を掲載させていただきます。（編集部）

能登半島地震その後 '08-4
被災地 NGO 協働センター 村井雅清

同雑感 08-3 でも、また写真集「いとしの能登 よみがえれ！」2でも触れました。重ね重ねの情報で恐縮ですが、あまりにも嬉しいので、あらためてみなさんと情報共有したいと思います。ご辛抱下さい。

先日4日、能登半島の穴水町にオープンしたうどん屋「ホットちゃん」の話です。仮設住宅に住む3人の被災者が、一緒になって、商店街の空き店舗を借りてうどん屋をはじめたのです。考えて見れば、コレって、こうして被災者自身が再建目指して新たな事業を展開するということは、よく言われるところの”復興バネ”を生かした再建の形ですね。もちろん、穴水町の活性化に一翼を担って欲しいと願ってやまないのですが、これからの災害後の被災者にとっての暮らし再建の一事例として、おおいに元気づけられる話題だと思います。

13年前の阪神・淡路大震災を思い出します。仮設住宅では最大5年間の生活を余儀なくされた方もいらっしゃいますが、実際に住民の中には、そもそも震災

前に商売をしていて、地震で商売を断念せざるを得なくなった人も少なくありません。中には仮設で商売を再開できればという思いで、相談を持ちかけたが「仮設での個人の営利事業はまかりならず」ということで許可されなかったという苦い経験をされた方もおられるでしょう。ところが特殊なケースとはいえ、その後、2004年の中越地震後の仮設住宅では、雑貨やとか散髪屋さんとか全村避難した村の場合には仮設での営業を認めたという事例がありました。

穴水のうどん屋ホットちゃんの場合は、仮設店舗をへずして、いきなり商店街の空き店舗で本格営業できたのでそれはそれで歓迎すべきことだと思いますが、今後考えなければならないのは、例えば個人商店で被害を受け暮らしの部分は仮設住宅を確保できたとしても、肝心の商いは出来ないというときに、仮設住宅内で仮の商いをスタートさせ、その勢いで本店舗再会に結びつけるということになれば、随分助かるのではないかと思います。

こういう個人事業主の支援の場合は、さまざまにハードルがあるのでしょうか、地域コミュニティの再建に神社や寺の再建が大きな心のよりどころとなるように、例えば地域に唯一あった風呂屋が再建されれば、あるいは八百屋さんや肉屋さんや〇〇屋さんがオープンすれば助かるのに、という極めてそこに暮らす人たちの感覚での必要性を考えての柔軟な判断も採用されていいのではないだろうかと感じました。

何故こんなことを提案したいのかといいますと、阪神・淡路大震災関連の新聞記事を整理していて目に止まったのですが、「収入源の店がダメになれば、家があっても生活できない」と訴えていた方も少なくなかったからです。災害は、被災地域によって”被害の顔”が違いますが、被災された方おひとりおひとりにとっても違います。やはりマンツーマン支援を目指して、いわゆる「最後のひとりまで」をと言いつけたいと思います。

仮設の縁 定食屋開店 (読売新聞 石川 2008/3/4)

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/ishikawa/news/20080304-0YT8T00159.htm>

“ホットちゃん”誕生 穴水の仮設住宅 (朝日新聞 石川 2008/3/3 写真付き)

http://mytown.asahi.com/ishikawa/news.php?k_id=18000000803030002

復興への思い 味に込めて 穴水 仮設住宅の女性3人 空き店舗で飲食店開業 (北陸中日新聞 2008/3/4 写真付き)

<http://www.chunichi.co.jp/article/ishikawa/20080304/CK2008030402092552.html>

(新聞記事は、神戸大学学生震災救援隊の社会人隊員のYさんの情報です)

被災地 NGO 協働センター e-mail ngo@pure.ne.jp

URL <http://www.pure.ne.jp/~ngo/>

「震災がつなぐ全国ネットワーク」<http://www.npo-aichi.or.jp/shintuna/>

3. アレルギー大学講師の声 『青木好子 先生』

アレルギー大学第3期を迎えるにあたって
皆さんこんにちわ。調理実習を担当します青木好子です。第1・2期アレルギー

一大学を受講された皆さん、今頃はアレルギー児のために毎日ご奮闘されていると思います。ご苦労様です。

調理実習を担当いたしましたことは、受講者の方々に満足していただけたかどうか？ということです。さまざまな立場の方々が（保護者・保育園・学校・保健所・病院・企業などの専門の方々）それぞれの思いで参加されていらっしゃる所以で伝える側としては大変悩むところです。

第1期の時は参加された皆さんに、少しでも多くのアレルギー食および技術を学んでほしいと思い、数多くのメニューを用意いたしました。しかし参加者の皆さんから調理したものがたくさんあって食べられないというご意見があり、第Ⅱ期の時は内容を整理し、話し合いを持つ時間を増やしてきました。話し合いをする事で受講者それぞれの立場から意見がだされ、特に保護者の方の思いや保育園・学校側の給食担当者の思いなどがだされました。お互いを知り理解することができとても良い場であったと思います。今後も引き続き話し合いの時間をとっていきたいと思います。第1・2期をふまえ、第3期を迎えるにあたって、日程を平日ではなく、土曜日・日曜日とし、午前・午後1日通して受講しやすいようにしました。また、「各職場で作っているアレルギー食献立をもちより検討し実習したらどうか」というご意見がありましたので、実践していこうと思います。

今回は、特別講座として「離乳食」づくり、「親子クッキング」を設けてあります。また、調理実習に入る前の講座も設けました。7月6日(日)午前 講座名「調理の実際と応用」 タイトル「アレルギー対応での調理のすすめ方」となっています。この講座をお聞きいただいて実習に臨んでいただくと良いかと思えます。丁寧にお伝えすることができると思います。第3期アレルギー大学をぜひ受講されますことをお待ちいたしております。

4. アレルギーの会の活動紹介 『北名古屋 アレルギーっ子まりもの会』

アレルギーっ子 まりもの会は、この春でちょうど一年を迎えるまできたばかりの会です。元は旧西春日井郡西春町の保健センターが主催していましたが合併に伴い市民サークルとして昨年新たに発足しました 会員は10名足らずと、まだまだ小さな会ですがアレルギーに悩んでいる子供達やお母さん方の手助けができればと思っています。主な活動は月一度の定例会、講師を招いての調理実習、講演会、クリスマス会など。詳しくは下記へお問い合わせ下さい。

TEL&FAX 0568-25-6343

丹羽 まで

5. 会員からみなさまへ

こんにちは。私は岐阜市に住む、5歳と8歳の男の子の母親です。8歳の息子のアトピー性皮膚炎に悩み、3歳から除去食を始めはや5年経ちました。その後、下の子息もアトピー性皮膚炎の症状が出始めたため同じように、除去食を始めました。現在は二人とも幼稚園・小学校の給食には、私の作ったコピー弁当を持参しています。

除去食を始めた頃は同じ悩みの仲間もいなく孤独や不安もいっぱいでしたが今は、ネットなどを通じてたくさんの仲間もでき、孤独や不安もなくなりました。

そして、アレルギー支援ネットワークの皆さんとも出会うことができました強い味方ができたと感じています。

今は二人ともアトピーの症状もやわらぎました。少しずつですが解除も進んで食べられるものも増えています。

決してアトピーでよかったとはいえませんが除去食をしたことで、食生活や生活環境の安全を大きく見直すことができ勉強になったと思えます。

まだまだこれからいろいろな問題がでてくると思いますがネットを通じてできた仲間やアレルギー支援ネットワークの皆さんに助けをお借りしながら楽しく子育てをしていきたいと思っています。今後ともよろしくお願ひします。

平山祥子

6. 2008年「第3期アレルギー大学」日程の変更など（最新版）

1. 次の講座の日程を変更します。

静岡県 No.13 初級講座、No.17 中・上級講座は、

7月6日(日)午前・午後より7月21日(月・祝)午前・午後に変更します。

第5会場 浜松市福祉交流センター(大会議室)

2. 講座・調理実習申し込み締め切りについてのお知らせ

各会場の講座・調理実習の申し込み受付は、それぞれの7週間前までですが、定員に満たない場合は、1週間前までは受け付けます。

尚、定員は各会場によって異なりますので、事務局(園木)までお尋ねください。

《お問い合わせ》

NPO 法人アレルギー支援ネットワーク事務局

アレルギー大学担当 園木

e-mail : sonoki@alle-net.com

Tel/Fax : 050-1369-8790

7. ホームページのお知らせから

A) 食物アレルギーひやりはっと事例集

<http://www.alle-net.com/taisaku/indexn.html>

B) 第3期アレルギー大学「調理実習献立一覧」

<http://www.alle-net.com/blog/event/2008%20alle-dai%20tyouri-kondate%202008.03.12.pdf>

C) 最新版アレルギー大学開講のお知らせ

D) 「ぜん息」症状のある方へ モニター調査にご協力ください

http://www.alle-net.com/blog/event/2007/11/post_17.html

E) 「防災・救援ネットワークシステム」への登録のお願い

http://www.alle-net.com/blog/event/2007/11/post_18.html

8. ボランティア・スタッフ募集

ボランティア・スタッフを募集します

《アレルギー支援ネットワークでは、ボランティア・スタッフを募集しています》

・パソコン(ワード、エクセル、アクセス、お絵かきなど)が得意な方

・イラストなどを描くのが得意な方

・何でもやってみたいなという方

・イベント、フェアなどを手伝ってくださる方

まずは、ご連絡ください。お待ちしております。

詳しいことは、事務局までお問い合わせください。

【問い合わせ】NPO 法人アレルギー支援ネットワーク 事務局 (担当：中西)

FAX : 0564-55-5702 e-mail : info@alle-net.com

9. アレルギー支援ネットワーク一般会員募集します

《アレルギー支援ネットワークでは、一般会員を募集しています》

詳しくは、<http://www.alle-net.com/>

「支援ネットについて」の「会員の特典・入会書」をお読みください。

【問い合わせ】NPO 法人アレルギー支援ネットワーク 事務局 (担当：中西)

FAX : 0564-55-5702 e-mail : nakanishi@alle-net.com

★皆さんのお近くで、アレルギーに関心、興味をお持ちの方、アレルギーでお悩みの方がいらっしゃるようでしたら、「アレルギー支援ネットワーク・メールマガジン無料登録」をご紹介ください。

★メールアドレスの変更や、このメールマガジンに関するお問合せは、asn-mailmagazin@alle-net.com (担当：園木) までお願いします。また、今後、アレルギー支援ネットワークのメールマガジンを希望されない方は、お手数ですが、件名に「配信停止希望」と書いてメールをお送りください。(メールマガジン配信準備の都合上、配信停止手続きと行き違いでお届けする場合がございます、ご了承ください。)

★このメールマガジンのメールアドレスには、返信はできません。ご注意ください。

★メルマガの転載について

無断転載・転送を禁じます。アレルギーの会などが活動で使用する場合は、事務局担当(園木)sonoki@alle-net.com までお尋ねください。

★会員のみなさまからのご要望、お便り、アレルギーについての疑問などお寄せ
ください。

NPO 法人アレルギー支援ネットワーク

◇事務局◇ 444-0802 愛知県岡崎市美合町三ノ久保 13-3, 103

▽TEL/FAX : 0564-55-5702 ▽E-mail : info@alle-net.com

☆◆-----◆☆